

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 11 日現在

機関番号：34424

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25285172

研究課題名(和文)ブローカー介入型多文化家族の家庭内暴力の社会福祉学的予防システム開発に関する研究

研究課題名(英文)A study of development on social welfare prevention system of domestic violence in broker intervention type of multicultural families

研究代表者

尹 靖水 (YOON, JUNGSOO)

梅花女子大学・公立大学の部局等・教授

研究者番号：20388599

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円

研究成果の概要(和文)：多文化家族の夫婦間での家庭内暴力の発生メカニズムを実証的に検討するとともに、その予防に関する政策・施策の国際比較、さらには日常生活問題に関連する社会福祉学的な介入の指針を開発した。学術的成果として、夫婦間の家庭内暴力に関しては、夫と妻の双方向からアプローチした。家庭内暴力の予防的な政策や施策に関しては、欧米、オセアニア、そして東アジア地域の比較を行った。多文化家族が直面している生活問題を、ソーシャルワークという枠組みにおいて、専門的介入に関する指針を整理した。

研究成果の概要(英文)：Positively verifying the occurrence mechanism of domestic violence between couples, and made international comparison of policy and measure related to the prevention. Furthermore we've developed social welfare intervention guidance regarding daily problems.  
For a result of study:1)We've approached from both directions regarding domestic violence between couples.2)We've carried out comparison of Europe and Oceania, East Asia regions policy and measure related to the prevention of domestic violence.3)We've made an arrangement of social workers professional intervention guidance to solve living problems which multicultural families are facing with.

研究分野：国際福祉、社会福祉

キーワード：多文化家族 家庭内暴力 福祉的介入 結婚移住女性 ブローカー介入型

## 1. 研究開始当初の背景

東アジア3地域(日本、韓国、台湾)の結婚移住女性の多くはブローカーが介在した国際結婚(以下、「ブローカー介在型多文化家族」となっている(約50%)。この「ブローカー介在型多文化家族」を取り巻く生活環境は、東アジア3地域のいずれにおいても極めて劣悪で過酷な状況にある。特に、夫の妻に対する家庭内暴力や殺人といった不幸な出来事、あるいは貧困等に起因する家庭崩壊(結婚後5年以内の離婚確率は極めて高く年単位でおおむね40~50%前後)が多発している。

しかし、東アジア3地域の社会福祉学領域において、ブローカー介在型多文化家族の女性が日常的に家族形成を具体的に継続する中でどのような生活問題(福祉ニーズ)に直面し、またその生活問題が貧困、離婚、家庭内暴力、ウエルビーイング等のさまざまなアウトカムにどのように関係しているのかについては十分に研究されていない。社会福祉学に立脚し、かつ東アジア3地域で発生しているブローカー介在型の多文化家族の生活問題をどのように解決していくべきか、またさらにその問題解決が本人のウエルビーイングの維持・向上にどのようなインパクトを与えるか等の詳細な説明は、単に社会福祉学領域における学術研究の課題であるということに留まらず、個々人の人権を尊重した社会福祉実践活動の展開という点からも極めて重要な課題と言えよう。

さて、本研究の学術的背景として、代表研究者は、日本社会福祉学会が日韓学術交流の共同研究課題として位置づけた「ソーシャルワークと東アジアモデル構築に関する研究」(文部科学省科学研究費補助金・基盤研究B:研究代表者黒木保博)ならびにその発展課題としての「東アジアの社会的リスクとソーシャルワーク理論と実践に関する研究」(同基盤研究B:黒木保博)に継続的に参加

し、また他方では、「超少子高齢・人口減少社会に対応する家族福祉モデルの構築に関する研究」(同基盤研究A:中嶋和夫)ならびに「地域のグローバル化に対応した社会福祉援助技術の開発と体系化に関する基盤研究(同基盤研究B:中嶋和夫)」を進めてきた。それら一連の研究は、儒教文化、家族主義、共同体意識、民族主義、地域社会などを総合的な分析視点とするソーシャルワークの東アジアモデルの構築を企図したものであった。同様の視座から東アジア3地域における資料を収集し、ブローカー介在型の多文化家族に対するソーシャルワーク東アジアモデルの構築を志向することは、社会福祉学の学としての基盤整備と多文化家族福祉実践領域の構築という点から意義深いものと思料する。特に、『地域のグローバル化に対応した社会福祉援助技術の開発と体系化に関する基盤研究』では、ブローカー介在型多文化家族の夫婦の家族形成に関する継続意思に関連する要因を、結婚コミットメントやその前提となるサイドベットの理論を踏まえた個人特性との関連で解析し、かつその解析結果を基礎とする社会福祉学的なアプローチの体系化を試みてきた。他方、家庭内暴力に関しては、特にこれまで児童虐待と高齢者虐待に着目して、その発生メカニズムとその対応に向けての施策の提案を行ってきた。

## 2. 研究の目的

家庭内暴力(DV)の発生メカニズムについては精神医学、社会学、心理学等の立場から多数の理論が提起されているが、社会福祉学に立脚する生活問題に着目した実証的研究はほとんど検討されていない。

(1)本研究は、ブローカー介在型多文化家族で多発している家庭内夫婦間暴力の発生メカニズムを、生活問題に着目して実証的に検討した。

(2)さらに欧米先進国の家庭内暴力予防シ

システムに関する資料を解析し、ブローカー介在型多文化家族の家庭内夫婦間暴力に関する社会福祉学的な予防システムを新たな視座構築することを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1) 韓国においては、国際結婚の仲介業者を通して結婚した韓国人の夫と外国人妻（結婚移住女性）を対象に調査を行った。夫の調査は、忠清南道と慶尚南道の多文化家族支援センターの協力を得て、また外国人妻の調査は、忠清南道と全羅北道の多文化家族支援センターの協力を得て実施した。前記地域の多文化家族支援センターを利用する夫 495 名、結婚移住女性 675 名を前記センター長が任意に抽出した。

(2) 台湾においては、国際結婚の仲介業者を通して結婚した台湾人の夫と外国人妻（結婚移住女性）を対象に調査を行った。調査は、台北市、高雄市、台北県、桃園県に在住する多文化家族を対象に行った。著者らは世新大学社会発展研究所等の多文化家族に関係する諸機関の協力を得て、前記4つの地域に在住する夫 511 名、結婚移住女性 503 名を任意に抽出した。調査期間は 2013 年 4 月であった。

### 4. 研究成果

本研究は、多文化家族の生活問題のうち、夫婦間での家庭内暴力の発生のメカニズムを実証的に検討すると同時に、その予防に関する政策・施策の国際比較、さらには日常生活問題に関連する社会福祉学的な臨床的介入の指針を開発することを研究課題として、フランス、ドイツ、アメリカ、ニュージーランド、韓国、台湾、日本の研究者ならびにソーシャルワーカー等、多彩な人材が参加した。

学術的な成果として、

(1) 前記研究課題のうち、夫婦間の家庭内

暴力に関しては、夫と妻の双方向からアプローチしている。このようなアプローチは、かなり野心的なチャレンジであったと思われるが、従前の研究においてこの種の研究ではほとんどなされていなかったことを考慮するならば、大きな成果が得られたと推察され、今後のこの領域における研究の発展、特にペアデータに基礎をおいた調査研究等にとって、大きな示唆を与えるものと言えよう。

(2) また、家庭内暴力の予防的な政策や施策に関しては、従来は個別的で断片的にならざるを得なかった問題を、欧州地域、米国地域、オセアニア地域、東アジア地域を視野にいれながら、かつ各地域の研究者の協力のもとに、社会福祉学的な観点から、成果をまとめ上げることができたことは、前記地域の歴史や文化を踏まえつつも、人類に共通した社会問題にアプローチする今後の研究において、大きな示唆を与えるものと言えよう。

(3) さらに、東アジア圏の多文化家族が直面している生活問題を、ソーシャルワークという枠組みにおいて、ほとんどこれまで体系化されてこなかったニーズを軸に、専門的介入に関する指針を整理したことは、今後のこの領域の研究に大きな示唆を与えるものと言えよう。

< 引用文献 >

戒能民江「DV法10年：女性支援はどこまで進んだか」戒能民江編著『危機をのりこえる女たち DV法10年、支援の新地平へ』信山社、2013。

堀千鶴子「婦人保護事業の現在」戒能民江編著『危機をのりこえる女たち DV法10年、支援の新地平へ』信山社、2013。

金サンウン「韓国警察の家庭内暴力犯罪に対する戦略的対応方案研究-米国、英国、ドイツ、日本比較研究を中心として-」治安政策研究所、2014、26-27。

金スンキョン、宋ミキョン、金ミキョン「家庭内暴力被害児童青少年実態および対応方

案研究、韓国青少年政策研究員、2014。

尹トッキョン「家庭暴力事件に対する警察初期対応方案」『ジェンダーレビュー』35、2013、20-22。

李ユジョン「女性暴力と司法」『ジャスティス』146(3)、2015、585-625。

町野朔「台湾家庭暴力防治法と加害者更正プログラム」『配偶者からの暴力の加害者更正に関する研究』内閣府男女共同参画局、2003、149。

高鳳仙「家庭暴力法規之理論與實務」(家庭内暴力法規の理論及び実務)2011、4以下。

澤田知樹「DVにおける強制的介入と被害者の意思」『経済理論』345号、2010。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

尹靖水・朴志先・金貞淑・黒木保博・中嶋和夫「韓国における多文化家族の親の生活問題と児に対する不適切な育児行動の関連性」『評論・社会科学』第107号、同志社大学社会学会、2014年、1-19頁

林祐平・朴志先・尹靖水・中嶋和夫「韓国と台湾における多文化家族の夫の生活問題と心理的虐待の関連性」『コリアンスタディーズ』Vol12、2014年、89-104頁

朴志先・尹靖水・中嶋和夫・金貞淑・嚴基郁「韓国と台湾における多文化家族の夫の日常生活ストレスと妻虐待の関連性-国際結婚ブローカーを通して形成された多文化家族を中心に-」『International Journal of Korean Studies』第16号、2016年、261-278頁

〔学会発表〕(計 1 件)

朴志先・尹靖水・中嶋和夫・金貞淑・嚴基郁「韓国と台湾における多文化家族の夫の日

常生活ストレスと妻虐待の関連性-国際結婚ブローカーを通して形成された多文化家族を中心に-」『The 12th ISKS International Conference of Korean Studies』,University of Vienna, Austria、2014年8月20日

〔図書〕(計 1 件)

中嶋和夫、尹靖水、近藤理恵、岡田節子他『多文化家族における家庭内暴力と福祉的介入の国際比較研究』学術出版研究、2016年、全330頁。

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

尹靖水 (JUNGSOO YOON)

梅花女子大学・文化表現学部・教授

研究者番号：20388599

(2)連携研究者

中嶋和夫 (NAKAJIMA KAZUO)

岡山県立大学・名誉教授

研究者番号：30265102

近藤理恵 (KONDO RIE)

岡山県立大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：60310885

黒木保博 (KUROKI YASUHIRO)

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：20121593

桐野匡史 (KIRINO MASASHI)

岡山県立大学・保健福祉学部・助教

研究者番号：40453203

(3)研究協力者

呉裁喜 (OH JAEHEE)

大東文化大学・文学部・准教授

岡田節子 (OKADA SETUKO)

前静岡県立大学・教授

朴志先 (PARK JISUN)

韓国・又松大学校・招聘教授

大成権真弓 (DAIJYUGON MAYUMI)

台湾・居留問題研究会 会長

Marylène Lieber

スイス・Universite de Geneve 准教授

Phoebe Stella Holdgrün

German Institute for Japanese Studies

Tokyo 副所長

Deborah Will

ドイツ・Graduate Student Univerität

Bremen

Bette.J.Dickerson

アメリカ合衆国・American University

副教授

Chloe Brown

アメリカ合衆国・Graduate Student of

Sociology, American University

Chang-Zoo Song

ニュージーランド・University of

Auckland 教授

嚴基郁 (UEM KIWOOK)

韓国・群山大学校・社会福祉学科・教授